



▲発光ダイオード(LED)の街路灯を設置



▲渡辺所長(右)から門馬副村長へ手渡されました

東北電力、明かりを寄贈

12月12日、東北電力福島営業所渡辺隆夫所長から村民の安全を光で守ろうと、街路灯25灯が寄贈されました。これは、同事業所が所員の意見を基に被災地支援事業「いいたて村おかえりなさいプロジェクト」の一環です。渡辺所長は「明かりを通して、復興を支えていきたい。村民の皆さんに寄り添った支援を今後も行っていきたい」と寄贈に込めた想いを話しています。



▲村が計画中の学校施設イメージ図

村が、村内飯館中学校エリアに計画中の各教育施設は、今回の報告書を基本として進められます。また、新たな教育ビジョンについては、学校運営協議会での協議内容をもとに、本村の特色ある教育の実現のため充実が図られる予定です。

今回提出された報告書には、幼保小中が連携し、一貫した教育を目指すこととした学校の運営方針の案や、村内既存校舎等の活用についてもまとめられています。



▲荒委員長から村長へ報告書が手渡されました

村内学校再開に向け

村内学校再開に向け、飯館中学校等改修を検討してきた飯館中学校改修推進委員会(荒利喜委員長)は、11月30日に村へ検討内容をまとめた報告書を提出しました。同会は、幼小中PTA会長や学校長などを委員として6月23日に設置されました。これまでに8年連続学力日本一の東成瀬村や小中一貫校の視察等を行い、さまざまな事例から学校施設の整備について協議を重ねてきました。



▲高橋雅行福島民報社社長から表彰を受ける菅野村長

村還暦をPR!

第55回福島民報広告大賞のモノクロの部にて、村が今年9月25日の朝刊に掲載した村制施行60年にあつての広告「60歳還暦です」が銀賞を受賞しました。これは、県内企業、自治体などが、福島民報に掲載した広告の中から、毎年優秀な作品を表彰するもので、今回村の広告が選ばれました。12月5日に行われた表彰式で、村長に表彰状が贈られました。審査員からは「村の60年を人の還暦・喜びに置き換えた希望を与える広告で、これからの未来を感じる」と講評がありました。



▲9月25日付福島民報掲載：村広告記事



▲12月15日、高濱代表の講演のようす

村の教育を考える

村教育委員会は、保護者や教職員を対象に、2回に分けて教育講演会を開催しました。初回の11月24日は、「日本一学力が高い村」秋田県東成瀬村の鶴飼孝教育長による講演会「共に学び合う教育」が開かれました。これまでの東成瀬小学校での取り組みについて、具体的な子ども姿を交えながら熱く話していただきました。

2回目の講演は、12月15日に学習塾「花まる学習会」の高濱正伸代表を講師に「メシが食える大人を育てる!」を演題として開かれました。高濱代表は、引きこもりや働けない大人の問題を何とかしたいと考えたのが花まる学習会を設立したきっかけと説明。佐賀県武雄市で官民一体型学校に参画している経験を交えながら今求められる教育についてお話がありました。

中でも、思春期を迎えた子どもへの対応や夫婦の役割に関する話には参加者が深く納得する姿が見られました。



▲11月24日、鶴飼教育長の講演のようす